

2017年における日本籍クルーズ客船の国内港湾寄港回数調査について
 ー横浜港が大幅に増加ー

日本外航客船協会（JOPA）はこの程、会員クルーズ会社が運航する日本籍クルーズ客船3隻の2017年（1月～12月）の国内港湾への寄港回数調査結果を取りまとめた。合計寄港回数は、海外ロングクルーズの減少等から、2017年の寄港回数は664回と前年の593回と比較して71回増加した。

寄港回数が最高となったのは、前年比33回増の120回を記録した横浜港で、15年連続でトップを飾った。第2位は神戸港の73回（前年と同数）、第3位は名古屋港の30回（前年比1回減）となったほか、第4位が東京港で19回（前年比2回増）、九州クルーズ基点港である博多港は第5位の17回（前年比1回増）等となった。

一方、目的地（寄港地）型の港としては、第6位にランクした屋久島の宮之浦港が15回（前年比1回増）、小笠原の二見港が第7位の13回（前年比3回増）、奄美大島の名瀬港が10回（前年比7回増）となったほか、利尻島の沓形港が8回（前年と同数）、沖縄クルーズの拠点港でもある那覇港が8回（前年比3回増）とともに17位等となっており、相変わらず離島クルーズは定番となっている。この他、東北クルーズの拠点港である仙台塩釜港が11回、北海道クルーズの拠点港である小樽港が10回となっているが、本年度は秋田船川港が13回で第7位（前年度比3回増）、新宮港が12回で第9位（前年度比8回増）となったことが特筆される。

クルーズ各社及び旅行会社等が歳時に合わせた定番クルーズに加え、新規顧客の開拓を狙って、地方港発着のクルーズを増加させると共に自然、文化、歴史、グルメといったタイムリーでテーマ性、話題性に溢れたレジャー及びチャータークルーズの催行が反映していると考えられる。

寄港回数が5回以上の港湾及びエリア（運輸局）別の寄港回数は、以下の通り。

○寄港回数5回以上の港湾

港湾名	回数	港湾名	回数	港湾名	回数
横浜	120	小樽	10	茨城 (日立・常陸那珂湊・大洗)	7
神戸	73	鳥羽	10	清水	7
名古屋	30	名瀬(奄美大島)	10	大阪	7
東京	19	高松	9	徳島小松島	7
博多	17	函館	8	広島	6
宮之浦(屋久島)	15	沓形(利尻島)	8	酒田	5
秋田船川(土崎)	13	金沢	8	八重根(八丈島)	5
二見(父島)	13	四日市	8	境	5
新宮	12	高知	8	長崎	5
仙台塩釜 (仙台・塩釜・石巻・松島)	11	那覇	8	青方(中通島)	5
鹿児島	11	青森	7	細島	5

○エリア（運輸局）別寄港回数（カッコ内は2016年）

エリア	回数	エリア	回数	エリア	回数
北海道	51回 (54回)	東北	51回 (54回)	関東	174回 (124回)
北陸信越	24回 (27回)	中部	65回 (57回)	近畿 (神監含む)	105回 (93回)
中国	31回 (36回)	四国	27回 (23回)	九州	115回 (103回)
沖縄	21回 (22回)			総合計	664回 (593回)